

齢を重ね一層輝きを増す原たね子様、うおずみ長寿記録更新!

106 年の年表

- 1916(大正 5)年 3 月 15 日 明石郡魚住村浜谷にて誕生
- 昭和 12 年 神戸市湊西区柳原へ嫁ぎ、のちに一男三女を授かる
- 昭和 19 年頃 戦災のため実家近くの魚住村中尾へ疎開
- 昭和 46 年 中尾で生活し、会社員として定年(55 歳)まで勤務
- 2019(令和元)年 8 月 22 日 103 歳にして、特養うおずみへ入居



リモート面会では毎週訪れる息子様娘様らへ毒舌(?)ぶりを発揮し、食生活では大の甘党。それは、うおずみ長寿番付不動の正横綱・原たね子様です。3月15日、めでたく106歳をお迎えになりました。息子や娘とっていい程の年齢の他入居者からも慕われる姉御肌。うおずみ長寿新記録の表彰式では、多くのご入居者・職員から祝福を受けておられました。これからも、ますますお美しく!



おめでとうございます

▲施設長より表彰状を授与

106 祝



年度末は大好きなあなたへ、大好きなにぎり寿司を

うらかな 3 月末の昼下がり。たわわに咲いたマーガレットの花びらを「好き」「嫌い」と、1 枚ずつちぎって出た答えは「大好き!」
そうです。年に一度、皆様が大好きな「にぎり寿司」が味わえる日がやってきました。

3 月 29(火)~31(木)日の 3 日間、フロア別に寿司桶に 7~8 貫を盛り付けて提供。もちろん赤だしとデザートもついています。海老、マグロ、サーモン、焼きハラス、アナゴ、タマゴなど。

「いただきます」と手を合わせるや否やネタの美しさに見とれる暇もなく矢継ぎ早に口の中へ。あっという間に完食。それもそのはず、口腔内で

トロ〜リ溶けてゆき、しっかり噛む必要もないのです。中には、29日にデイサービス、30日はショートステイと2日連続召し上がることができたご婦人があれば、2日連続で検食に当たった幸運な職員もいたとか。大好きなあなただからこそ贈る特別なメニュー。やっぱりお寿司はブラボー!



大好き!



寿司



ごちそうさまでした!



GOOD! thumbs up
あまりの旨さに目玉飛び出る!



厨房だより 彼岸前に、健康的で旨い丹後バラ寿司をどうぞ



うまい!

暑さ寒さも彼岸まで。お彼岸の3連休前、ランチはお待ちかねの寿司。それも「丹後バラ寿司」。サバのおぼろ(そぼろより細かい)をふんだんにちりばめた、京都府・丹後地方の郷土料理ですサイドには豆腐の田楽、小松菜のおかか和えを。煮ることであっさりとした仕上がりの逸品。サバの苦手な方でもお箸が進みます。暦だけでなく、味覚にも春が来きましたね。もちろんデザートもついてます。

♪タンゴといえば私!



めにゅうカミングスーン

- ・4/12 《ご当地フェア・石川県》
金沢おでん風
- ・4月後半 《ちらし寿司の日》
五目寿司
- ・5/5 《端午の節句》 お楽しみに!
- ・5/8 《母の日》
カーネーション・スペシャル



花もいけど、おやつもね! あん巻きを焼きました DS



青葉台公園の桜のつぼみが日に日に大きくふくらんでいる最中の3月22~24日(火~木)、デイサービスではホットプレートであんこを包む「あん巻き」づくりを開催しました。慣れた手つきで美味しそうなおやつに仕上げてゆく利用者の皆様方。洋菓子好きなご婦人も、饅頭に目がない殿方も「お~、新しい」と舌を巻く革命的なうまさ。それもそのはず。1枚・1枚、愛情込めて焼き上げたのですから。深い愛に抱かれてこのあん巻きを味わい緑茶をすすれば、他に何もすることがない...嗚呼、贅沢な昼下がり。



花より団子

人も、饅頭に目がない殿方も「お~、新しい」と舌を巻く革命的なうまさ。それもそのはず。1枚・1枚、愛情込めて焼き上げたのですから。深い愛に抱かれてこのあん巻きを味わい緑茶をすすれば、他に何もすることがない...嗚呼、贅沢な昼下がり。



▲会話に花が咲く(デイサービス・3/29)

百花繚乱のうおずみ

《訪問理美容》 4/11(月)→1F、28(木)→3F
20(水)→AM:2F、PM:デイサービス
《デイサービス観桜会》
4/4(月)~9(土)於・大窪八幡神社



▼チューリップ満開! (4/5)



編集後記

放送作家(政治家?)の大橋巨泉は晩年、気温が20度前後になる地域でのみ生活すると、豪州やカナダなどへの移住を繰り返していたそうです。日本の4月。いちばん過ごしやすく、まさに巨泉の生活のよう。厳しかった冬が終わってホッとひと息といったところです。が、猛暑の足音が忍び寄ってくるような...世界には年中夏もしくはその反対の国もあるのだから、年中春の地域があってもいいのでは?なんて言うと、花粉症に悩む人に怒られちゃうかも。入学式に臨む親子連れを見て気分がホッカリしたり。とにかく、春の訪れは何十回あってもいいものですね。